

答えて市長！一般質問

前ページからの続き

同様に外側線すらありません。安全対策を講じては如何か。

(答)都市整備部長 日ごろから保護者、地域ボランティア、交通指導員の方々による登校支援が行われ、地域が一体となって児童の安全確保に取り組みられています。一部には県の公安委員会に決定した道路交通法上の規制が対応のスクールゾーンが設定。路面標示が薄い部分や消えている部分もあることから適正な状態が保てるよう努めてまいります。

一人あたりに換算すると、文化連盟が720円、各スポーツ団体が420円となっている。最大1000倍以上の税金が演劇事業に支出されているわけだが、公平正性に欠けていると考えるが、市の見解を伺う。

(答)市長 演劇を選挙で訴え、選挙に勝った。市の事業としてやっている。

市の事業は決定過程の議論と透明性が大事

遠藤 義法

税金の使い方の公平公正性について

吉川 敏幸

(問) 平成29年度の決算において、社会教育推進事業である市民劇団は、27名の参加者に対し、総額913万5千円が支出されているとのことでした。文化連盟、体育協会所属の各スポーツ団体への補助金と比較し、税の使い方の方の公平性について市の見解を伺います。

(答)教育部長 他課と連携を図りながら、様々な課題解決のための活動を行っているので、適正な支出であると考えている。

(問) 演劇事業には、1人当たり33万8千円、文化連盟に対しては46万円、体育協会の各スポーツ団体には、142万9千円。

アンケートもとり、専門家を招いて検討し、運営委員会にも関わった。最後の責任をとる、判断をすることが市長の役割であると考えており、すべて自分が決めるというわけではない。

市内小中学校の情報発信と特徴に合わせた対応を

林 美希

(問) ①児童・生徒数の増減が著しく、運営維持が困難と思われる際の対応と、その対応実施までの過程は。②児童数推移予測(学年毎・住民基本台帳ベース)を公開しては。③児童数増加が見込める小学校区に居住する児童が、他の小学校への通学を選択できる制度整備としては。

(答)教育部長 ①学区編成の適正化を図る必要がある場合、数年前に学区審議会を設置する。②地域の要請に応じた懇談会の開催含め情報提供について検討する。③弾力的運用を含め制度整備について研究する。

◆住民自治について

(問) 市の役割と住民の役割の線引きをした上で、住民自治を推進していく仕組み作りが必要と思うがいかがか。

(答)市長 地域のことは地域の人たちが自分たちの考えで決められるような制度を作り上げてい

きたい。

越谷・吉川線。25m道路に桜などの街路樹を

伊藤 正勝

(問) 吉川橋と越谷・吉川線の進捗状況を確認したい。

(答)都市整備部長 吉川橋は32年秋に供用開始の予定。続く県施工の交番までの道路は北側2車線の片側通行で、工事完了は34年春を目指すとのこと。中央土地内は大場川の手前までは31年4月で完了。その先の市施工部分は基礎工事中。架橋についても県との協議や補助金のこともあり、全線開通の見通しはまだ言えない。

(問) この25m道路と栄小への通路延伸部分は低木のつづじのみの植栽と聞く。その理由は。幹線の歩道には桜、通学路には花みづき。おしゃれなまちづくりをめざし市長キャラバンなどのテーマにして住民の意向も聞いてほしい。

(答)都市整備部長 越谷・吉川線は県の管理。落葉や鳥虫害など維持、管理に手間がかかり、住民の苦情も多い。通学路についても同じ状況。低木のつづじで考えている。

市長の市政運営・議会対応と道路補修計画の透明化を

降旗 聡

(問) 市長の所信表明で「市民・議会・行政との三位一体」「行政・議会の両輪で」と述べていたが、今後の市政運営と議会対応について。また、以前、自公に4を加え、議会を乗り切るといった考えを示したが、その本意について。

(答)市長 正しいことは正しいと進めたい。この議場でしっかりとしたミスリードのない議論をしたい。それが為しえたいうえで三位一体のまちづくりが進められる。

(問) 道路整備・維持補修の計画を見える化し、広く市民の理解を得ることが大切であると考えているが、市の見解について。

(答)都市整備部長 現在、地域からの要望や職員の目視による道路パトロール、幹線道路などを対象とした「路面性状調査」の結果を参考として、概ね3年間の舗装補修路線の計画を立てている。

芸術文化事業について

戸田 馨

(問) 第二回吉川市演劇プロジェクト「あゆみ」の総括、演劇以外の芸術文化事業の総括と今後について伺う。

(答)教育部長 11月24・25日に上演された「あゆみ」は、2日間で2回上演し、ほぼ満席となる313名が観覧、95%が満足との回答があり、芸術文化の振興に一定の成果があった。関連施策との連携も図られ、平和のついででの朗読、児童館ワンダーランド30周年記念事業「アプライド・ドラマ」を実施した。世代間交流や高齢者の生きがい、吉川市への郷土愛が育まれる等の効果もあった。その他の芸術文化事業については、市民文化祭を始め、文藝よしかわの刊行、文化芸術祭の実施などにより、芸術文化の振興に取り組んできた。平成30年度市民意識調査では「芸術文化に触れあう機会」が30%から55%に上昇。今後も引き続き芸術文化の振興を図ってゆく。

